

いかご通信(こども編)

“すみよい街”
それはみんなの心がけ



あめのもりほうしゅう
雨森芳州(高月町)



ちやまつり
茶わん祭(余呉町)



まるこふね
丸子舟(西浅井町)



きのもとしぞう
木之本地蔵(木之本町)

発行日：平成17年11月1日
発信元
滋賀県湖北地域振興局
木之本建設管理部
住所
伊香郡木之本町黒田1234
電話：0749-82-3434

〇“土木”って何？

みなさんこんにちは。

『いかご通信』は見たことあるかな？

年間3～4回皆さんのお家へ届いていると思いますが、今回は、特別に、「こども編」ということで、皆さんにわかりやすく作ってみました。

まずは、「土木」ってどんな仕事をしているか知っていますか？

皆さんが毎日利用したり、遊んだりしている、道路や公園、さらには、ダムや水道、下水道など、皆さんが暮らしに欠かせないものをつくる仕事なのです。

皆さんの住んでいる伊香郡は、山が多くあることから、橋やトンネルを通りますね。いつもは、何気なく通りますが、まさしく‘縁の下の力持ち’に見えませんか？

また、新聞やテレビで地震や大雨などで大きな被害があちこちで起こっています。このようにならないような仕事も大切です。

昭和62年に社団法人土木学会が毎年11月18日を「土木の日」と定めています。

11月18日から11月24日までが「くらしと土木の週間」と定め、この期間に全国各地で土木に関するPRが行われます。

また、11月18日を漢数字で書いてみると・・・

十一月十八日 → 十 十 → 土木
一 八

“土木”という言葉になりますね！

皆さん「土木の日」を覚えてくれたかな？

道路工事のようす



木之本町金居原地先で建設中の道路です。早く完成するといいですね！

砂防工事のようす



余呉町椿坂地先の下谷川で大きな岩などを止めるために造られたダムです。

さいがい わす 〇災害は忘れたころにやってくる

台風や梅雨の季節は、大雨や強い風による土砂災害や水害が起こりやすくなります。昨年も、全国あちこちで起こりましたが、お隣の福井県では大きな被害があったことはみなさんも知っているはず。

私たちの住んでいる伊香郡内でも、昔は大きな災害があったのです。

そこで、被害の大きかった余呉川の取り組みを紹介します。



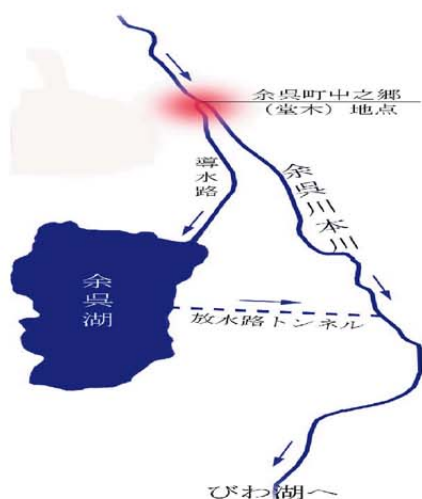
にし の すいどう とく 「西野水道」の取り組み

古来、高月町の西側にある西野地先は、北と西を山に囲まれた低い土地にあり、そこを余呉川が大きくカーブを描いて流れていたため、大雨のたびに堤防が切れて田畑は水につかり、当時の村人を苦しめていました。

江戸時代末期、西野恵荘というお坊さんを中心に、たび重なる水害を何とかしようと考えた村人達は西山を掘り抜いて排水路を造る工事を決意します。しかし、重機も無い時代ですのでノミなどを使って手掘りで掘り進める方法しかなく、準備に4年、実際の工事に5年を要した大工事だったと伝えられています。こうして完成した西野水道により水害は減ってきました。

その後1950年（昭和25年）には、2代目の余呉川西野放水路（延長245m、幅4m、高さ4m、工費991万円）が、1980年（昭和55年）には、3代目の放水路となる余呉川西野放水路（延長286m、幅10.3m、高さ10.3m、工費36億円）が完成し、現在に至っています。

余呉川は、最上流からこの西野トンネルまで20km余りの距離がありますが、その中流部に「余呉湖」があります。大雨が降って余呉川が増水し洪水被害が予想される時には、雨水を余呉湖に入れて余呉川沿川の洪水被害を少なくしているのです。



ふるし 古いトンネルいくつ知っているかな！

こほくずいどう にしあざいちょうは たべ やのくま
湖北隧道(西浅井町八田部～岩熊)



このトンネルは、今から71年前に県道の改修工事として昭和9年3月に完成しました。

上部題額には「風光随一」とあります。八田部からトンネルを出ると美しい琵琶湖が見えます。

現在は町道として利用されています。

延長163m・幅5.5m

工費51,960円

しずがだけずいどう きのもとちょうおおと はんのうら
賤ヶ岳隧道(木之本町大音～飯浦)



このトンネルは、今から78年前に県道の改修工事として昭和2年11月に完成しました。

新賤ヶ岳トンネル開通までは国道8号のトンネルとして利用され現在は県道飯浦大音線として利用されていますが、冬期(12月から3月)は通行止めです。

延長382m・幅5.5m

工費32,220円



あつとりざかずいどう きのもとちょうきのもと かわい
档鳥坂隧道(木之本町木之本～川合)



このトンネルは、今から73年前に県道の改修工事として昭和7年11月に完成しました。

新档鳥坂トンネル開通までは国道303号のトンネルとして利用され現在も利用されています。

延長63.63m・幅3.63m

工費19,483円

すぎもと にゅう ずいどう きのもとちょう すぎもと よごちよう かみにゅう
杉本(丹生)隧道(木之本町杉本～余呉町上丹生)



このトンネルは、今から86年前の大正8年3月に杉野村杉本と丹生村橋本間に滋賀県で初めて(山を越すことを目的とした)作られました。

昭和26年に改修工事を行い現在も県道杉本余呉線として利用されています。

延長300m・幅3.6m

工費2,500円(県費)、土倉鉞山寄付(労力・資材一式)

〇身近な名所を知っておこう！

「^{とちのきとうげ} 栃の木峠」

栃の木峠は、木ノ芽峠（栃の木峠から直線で北西約2.5キロ）とともに古くから、北陸と近江を結ぶ重要な街道の峠として人々が往来していました。戦国時代末期、栃の木峠を通る街道は、武将「柴田勝家」により道幅3間（約5.4m）に改修されたと言われています。

このあたりは雪が多く、峠のすぐ近くには余呉高原スキー場やベルク余呉スキー場があり、スキー・スノーボードで訪れた人も多いのではないのでしょうか。戦国時代にも、羽柴（豊臣）秀吉に負けた柴田勝家は、「この雪がなかったら秀吉に負けなかった。秀吉に負けたのではない、雪に負けたのだ（中略）」と言ったそうです。



“淀川の源”の石碑があります

〇こんな機械が活躍しています！

土木といえば、地面を掘ったり、川の土手を作ったり、コンクリートで壁を作ったり、橋を架けたり、冬が来て雪が降れば道路の雪をどけたり、いろいろな建設機械が活躍しています。それでは、建設機械にはどのような種類があって、どのような仕事をしているのかみてみましょう。

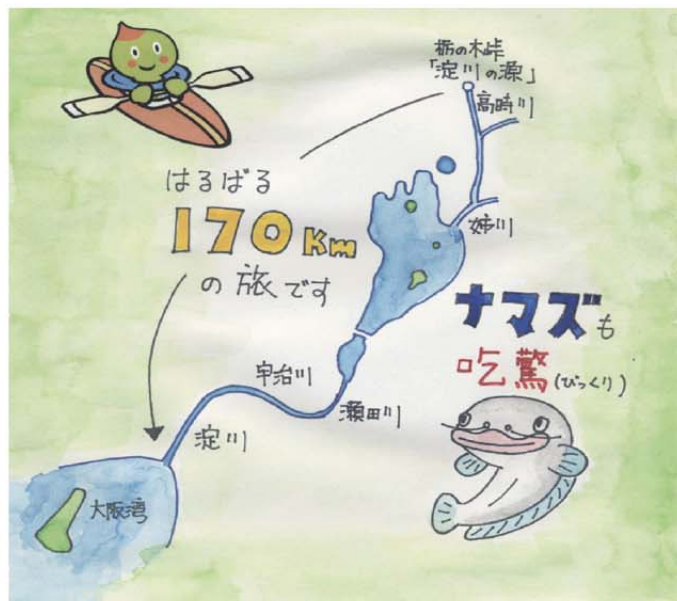
○「バックホウ」といいます。地面を掘る機械です。



○「ロータリ除雪車」といいます。冬になって道路に雪が積もったときに、出動して雪を取り除きます。

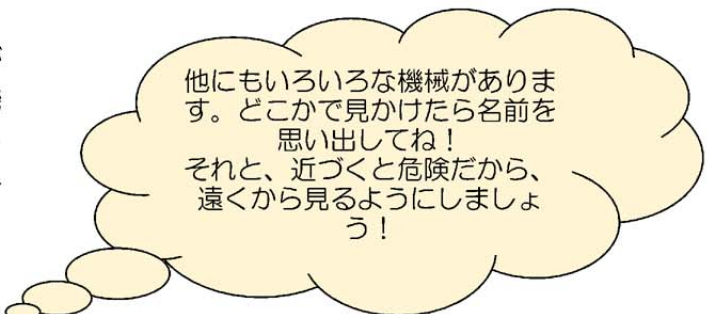


○「ブルドーザ」といいます。地面を平らにする機械です。



そしてもう一つ、栃の木峠は「^{よどがわ みなもと} 淀川の源」でもあるのです。（峠近くには「淀川の源」の石碑があります：写真のように）

栃の木峠にふった雨は、高時川から琵琶湖へ入り、淀川を流れ大阪湾へそそぎこんでいます。その旅は何と、高低差540メートル、長さ170キロメートルにおよびます。



他にもいろいろな機械があります。どこかで見かけたら名前を思い出してね！それと、近づくと危険だから、遠くから見るようにしましょう！

あと書き

去る10月2日に、みなさんのお友達が、「落書き消し」のボランティアをしてくださいました。ペンキで汚れながらも最後まで頑張ってもらい、おかげで、キレイになりました。



いかがでしたか、みなさんの暮らしにとって身近な「土木」のこと、少しわかってもらえましたか！これからも、いろいろなことに興味をもってもらい、わからないことがあれば質問してくださいね。

連絡先
滋賀県湖北地域振興局木之本建設管理部
住所
伊香郡木之本町黒田1234
電話
0749-82-3434